

総合交通政策を担う人材育成プログラムの開発と実践

NPO 法人・再生塾の取り組みを通して

1. NPO法人・再生塾とは？

「総合交通政策やまちづくりの重要性は多くの
人たちが語っているが、何故、実現しないのか？」

2007年正月に、故北村隆一先生の提唱で、
「ビジョンとドリーム」を持つ人材育成を目的として、
再生塾が始まる。

2009年2月にはNPO法人化（初代理事長・北村隆一先生）
研修プログラムの見直しと拡充、支援・アドバイス事業への取り組み、
そして塾生相互の交流事業など多様な側面から人材育成に
取り組んでいる。

2. 時代の変化と人材育成の重要性

【時代の変化】

- ・人口減少社会、地域社会の持続的な維持をめざすために総合交通政策が重要。
- ・地域公共交通の課題＝役割は、乗客増加からモビリティの確保へ
- ・ITの進展による新たな技術開発への対応の必要性
- ・「クロスセクター効果」の算出等、政策推進に関する可視化と評価の重要性の高まり

【主体の状況】

- ・行政：持続可能な地域公共交通とするために、
①自治体が主体・主導、②まちづくりとの連携を法制度で明確に位置付け。
- ・交通事業者：運行だけでなく、社会の変化や市民のニーズに応えるサービスの提供、
及び推進する人材の不足
- ・コンサルタントなど専門家：技術やアドバイスの提供と、ワークショップなど
地域の問題を構造する役割への期待
- ・地域住民・議員：要望型から、参加・自律的取り組みへの転換

3. 「互学互習」・再生塾の人材育成プログラムの特徴

プログラムの変遷

- 2007年：毎月の連続セミナー
- 2008年～：入門編としての「基礎編セミナー」と
実践的研修型の「アドバンスド・コース」に拡充、
- 2010年～：地方議員対象「地域公共交通セミナー」開講
- 2013年～：ワンデー研修の「技術セミナー」開講

LF (Learning Facilitator) の設置

各チームが効果的に機能しているかチェックし、時には議論に介入し、
参加者の気づきを促す適切な質問を行い互学互習や対話を
活性化させる補助的な役割を担う。

現在16名（内訳：大学3名、行政5名、コンサルタント6名、交通事業者2名。
この内、塾生OB・OGが8名）で構成されている。

4. 進化を続ける5つのプログラム

① 基礎編 定員60名

交通政策に関する基礎的な知識の習得を目指し、
行政担当者、交通事業者、コンサルタント等を
対象として講義とグループワークを組み合わせた
入門コース

② 地方議員セミナー 定員15名

主に地方議員を対象として公共交通の再生に向け、
交通政策の基本的な考え方や先進事例、
計画手法を講義し、
参加者からの質疑と応答を組み合わせた研修

③ 技術セミナー 定員40名

定量的な技術力の向上を目指す人達を対象として、
調査手法、既存データへのアクセス方法、分析方法、
表現方法等についての研修。
アドコース参加者は必修（定員に含む）

④ アドバンスドコース 定員20名

主に自治体・交通事業者・コンサルタントなどで実践的な研修を
希望する人達を対象として、実際のフィールドで
現地の交通政策課題に取り組むコース。フィールドに応じて
少人数のチームを編成し参加者とLF(ラーニングファシリテータ)
が一緒になり問題発見、課題抽出、解決策の提案と発表まで行う。
なお、最終発表会にはフィールドの関係者などにも
参加をいただくこととしている。

| 開催時期 | 内容 | 開催時期 | フィールド |
|---------|-----------------------------------|-------|------------------------------|
| 1回目 8月 | オリエンテーション、課題の発見 と現地調査に向けての仮設立案 | 2008年 | 京田辺市 京福電鉄嵐山線 大阪市交通局 (赤バス) |
| 2回目 8月 | 技術編に参加(必修) | 2009年 | 京田辺市 富田林市 |
| 3回目 9月 | 現地調査、関係者にヒアリング (必要に応じて追加調査) | 2010年 | 川西市 叡山電鉄 |
| 4回目 10月 | 問題・課題の要因を突き止め、 政策の方向性を議論 | 2011年 | 長岡京市 KTR北近畿タンゴ鉄道 |
| 5回目 11月 | 課題解決のための計画策定、中 間報告と意見交換 | 2012年 | 河内長野市 京都バス |
| 6回目 12月 | とりまとめ、フィールドへの最終的 な提言発表と意見交換 | 2013年 | にしきた商店街 水間鉄道 |
| | | 2014年 | 大阪市生野区 京都京阪バス |
| | | 2015年 | 茨木市 神戸電鉄粟生線 |
| | | 2016年 | 尼崎市 北条鉄道 |

⑤ 実践編

にしきた商店街(西宮市)と
協働して再生塾で提案した
歩行空間の拡大の取り組み
を行い、
今後の展開につながる
活動をおこなっている。

5. 人材育成の効果（参加者数と塾生からの評価）：延べ816名の塾生（東北～九州まで）

◎ 塾生の参加

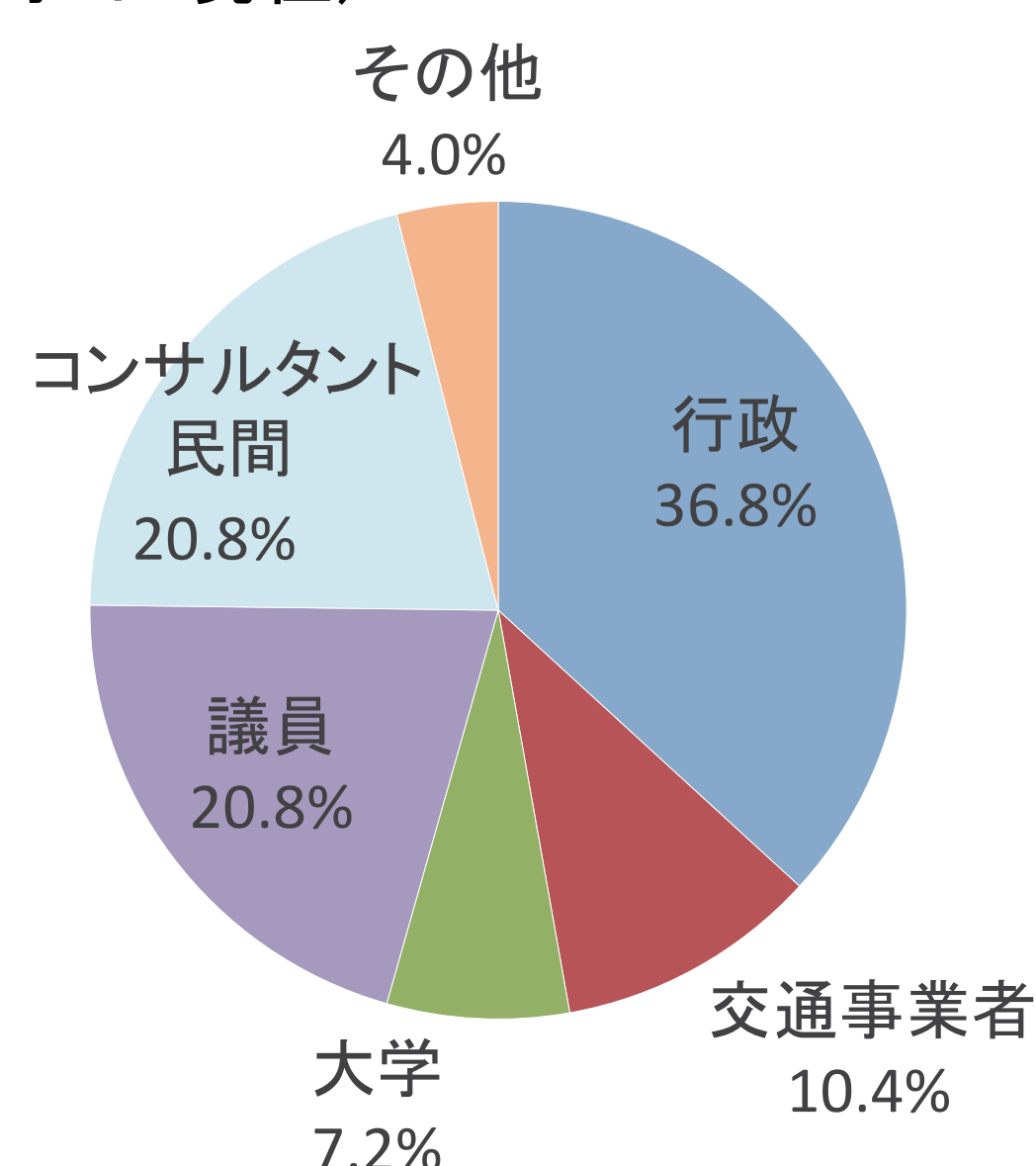
- ・基礎編とアドコースが中心

| プログラム | 連続 セミナー | 基礎編 | 地方議員 セミナー | 技術編 | アドバンス ドコース | 合計(延べ 参加者数) |
|--------------|------------|-----|--------------|--------|---------------|----------------|
| 開催回数 | 1 | 9 | 7 | 2 | 8 | - |
| 参加者数 (延べ) | 34 | 471 | 121 | (単独27) | 163 | 816 |

- ・行政が約4割、コンサルと議員が2割

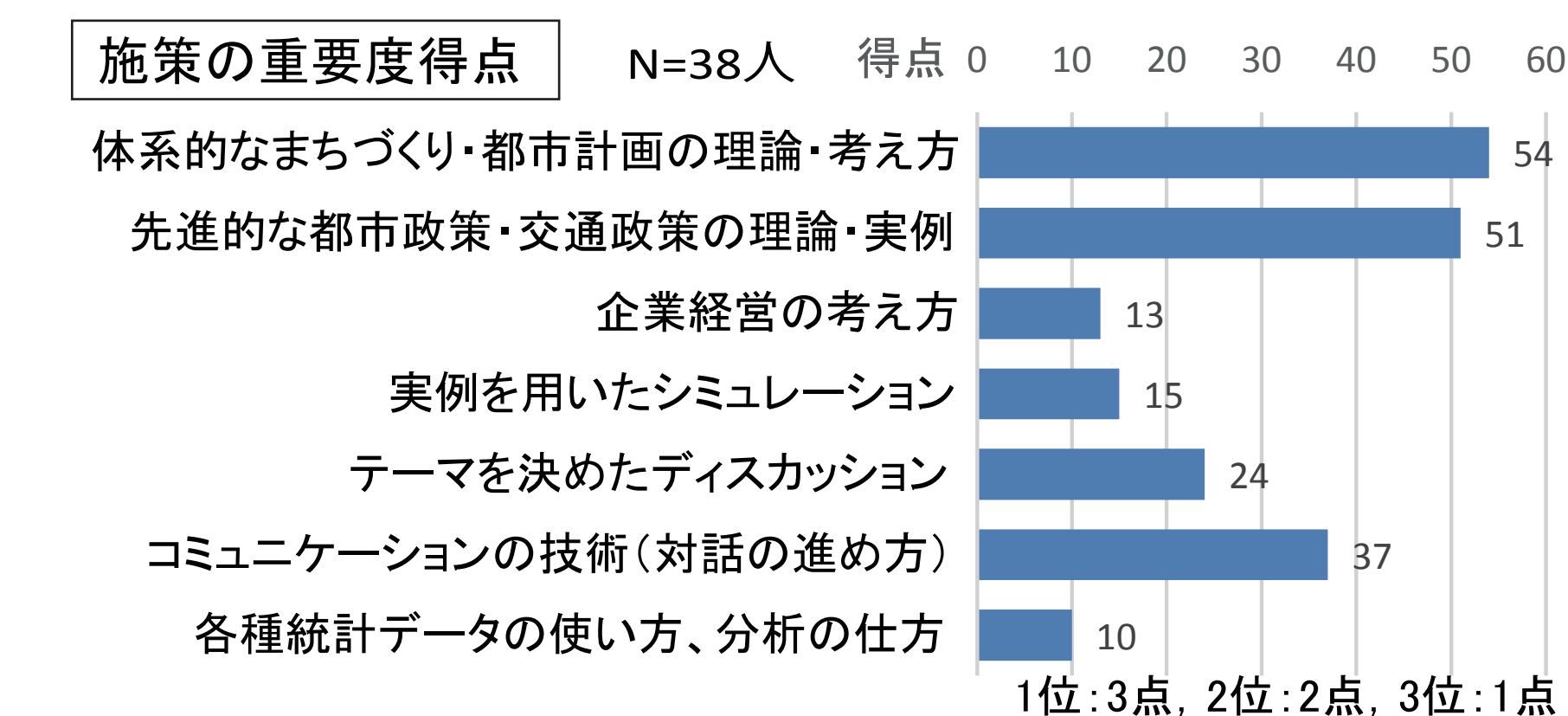
再生塾参加者数

実参加者数：500人
(2016年4月1日現在)



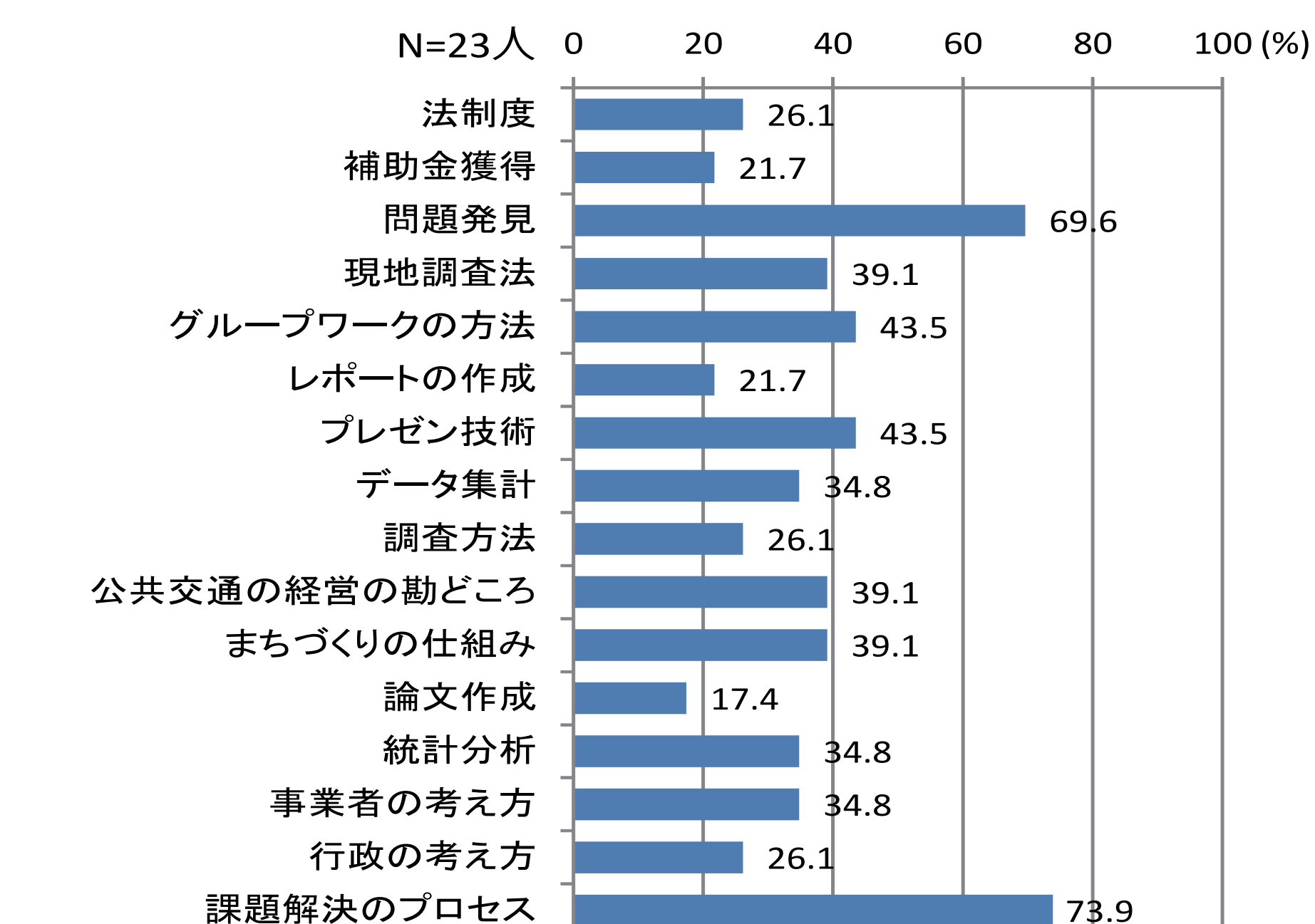
◎ 期待されるプログラム 2016年基礎編塾生アンケートより

「体系的なまちづくり都市計画の理論・考え方」
「先進的な理論・事例」「対話の進め方」

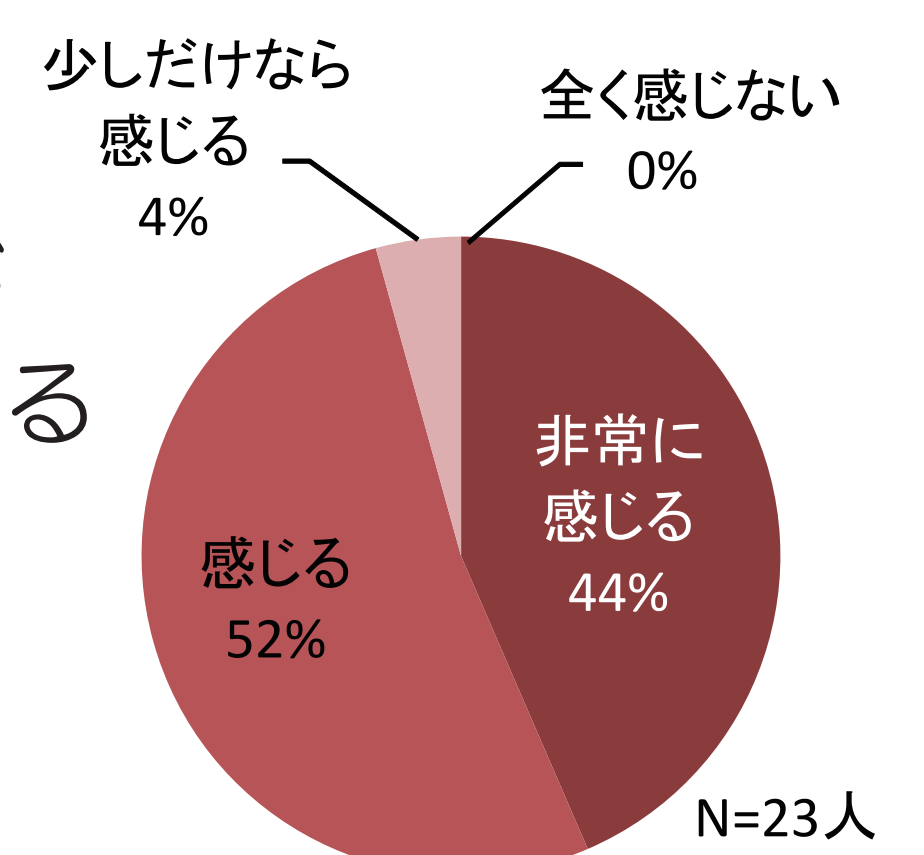


◎ 受講を通じて身につけたいスキル 2008～2013年にアドコース塾生アンケートより

「課題解決のプロセス」「問題発見」



9割以上が受講を
通じて得たスキルが
仕事の役に立っている



◎ 自由意見

- ・一つの目標に向けて夢を語り合い、共有できる
- ・志の高い方々との議論は、強い刺激になる。
- ・論理的な思考能力の向上
- ・熱い思いの方々と意見を交わすことができ
色々な気づきを得ることができました

あなたも参加してみませんか？
<http://www.saiseijuku.net>
土井勉,大藤武彦,正司健一,村尾俊道,本田豊,東徹

